

## 中間構文に関する一考察

### An inquiry into the middle voice

古賀 智久

Tomohisa Koga

#### Abstract

The aim of this study is to review the history and features of the middle voice, to reconsider how to utilize the middle voice and how to use verbs that are similar to the middle voice to improve students' translations of English into Japanese in reading class. This paper includes not only the system in which the middles are used and the accompanying ambiguity, but also the important matters of the middles such as how they are applied to advertisement and how sentences utilizing the middles could be interpreted. In addition, further research on a variety of topics concerning the middles will continue.

#### 1. はじめに

2016年前期・後期、2017年前期・後期、2018年前期（前期・後期とも週2回計28回の授業を実施）の大学一年生必修クラスのリーディングの授業（学生のレベルや実施テストは本稿の注1参照）を通じて、授業内で訳文を書いてもらう際に、誤訳とまではいかないものの、日本語として普段使われる可能性が低い（誤訳例は本稿注2参照）、あるいは全く使われる可能性がない表現に出くわすことが多くあった。大学受験の指導においてもこの現象は散見されるが、訳し手の少しの工夫で読みやすい訳文になる場合が多いので、本論では、誤訳になりやすい中間構文とそれに類する用法の扱いに焦点を置く。

54名の学生に対して、以下の文を和訳せよという問題を出した（2018年6月7日実施）ところ、訳語の差は多少あったものの、全員以下のようにほぼ同じ訳を書いた。

- ① Tom broke the window. トムは（その）窓を壊した。

- ② The window was broken by Tom. (その)窓はトムによって割られた・壊された。  
③ I was surprised to hear the news. 私は(その)知らせを聞いて驚いた。

②と③は明らかに受動態であるのに、②は受身であることが分かる訳文(割られた・壊された)となり、③は能動形での訳になっている。

また、②を割った・壊した、③を驚かされたと書いてある答案には出合わなかった。

どちらも同じ受身の形をしているのに、一方は受身でもう一方は能動の形で訳される理由を書く欄を設けておいた。31名の学生が回答しており、なんとなくという回答もあったが、一番多い例は、「そのように訳し分けるのが自然だから」であった。彼らが思う自然な訳出の仕方は、能動の訳出を「～する」、受動を「～される」を基本としつつ、この規定通り訳すと違和感がある場合には、語尾を少し変えるというものである。例えば、be born, be surprised, be excited, be seated, be locatedなどは、「～される」と訳すと日本語としては不自然である(be bornの「生まれる」は、確かに生ま「れる」なので受動に近いように見えるが、「生まれる」という表現自体は、(自然とそうなったという)自発とみることが多い)ので、「～する」と訳していると考えられる。

以下に示す2.2.3のタイプC-1に属する動詞(例えば surprise や interest など)が使われている英文の学生が書く訳は的確であるが、2.2.2.のタイプBに属する動詞(例えば look, feel など)の単語のみの訳は、それらが使用される現実の訳とはかなりの乖離があるため、どのようにすれば分かりやすい訳ができるかについては、次章以降で示す。

## 2. 中間構文の特性

### 2.1 中間構文とは

中間構文は、能動受動態、能動受動構文、中間態、中動態、中間自動詞、能動態の形をした受動態などと呼ばれる場合もある。中間態というのは、生成文法で用いられる用語である。Jespersen は、中間態のことを能動受動態 (activo-passive) と名づけ、能動態の形式で受動的な意味を表す用法として定義している (Jespersen, 2013年)。中間構文がいつどのような条件で用いられるかについては、簡潔な説明がなされることが今まで少なかったが、日本語の「売れる、読める」といった可能動詞と対応する場合が多い。この章では、中間構文の用例を詳しく確認する。

中間構文を表す名称が複数ある理由は、元々古典ギリシャ語に能動態と受動態の他に中間態という態が存在しており、文法用語はギリシャ語をもとにして作られることが非常に多かったからだと考えられる。複数の語句が作られる過程で、まずは中間態という用語ができ、その後、上記にも示した生成文法や Jespersen が使っている用語が作られた結果、中間構文を

示す表現が増えていったと思われる。

一般的に考えると、能動態と受動態から中間態が生まれたと考えがちであるが、印欧語比較言語学者の Eduard Schwyzer (森田 1998年 p.104) によれば、受動態は中間態の一用法に過ぎず、中間態の役割が増えすぎた結果、そこから分化して受動態というものが生じたとしている。また、中間態という用語はギリシャの文法家により命名され、サンスクリットやヒッタイト語にも用いられる用語である。

英文法における中間構文の分類は殆どなされておらず、Hoffner Jr., H.A の *A Grammar of the Hittite Language* の説明と、古川晴風の『ギリシャ語四週間』の分類が英文法にも応用できるので、両者の記述を比較する。

能動態、受動態、中間態の定義がわかり易く書かれているヒッタイト語の文法書 (Hoffner Jr., H.A の *A Grammar of the Hittite Language*) からまずは確認してみる。Hoffner Jr., H.A (2008年) は、同書で以下の3つになると定義している。

- 1) 能動態では、主語は動詞の表す行為の動作主であり、それ以上の含みはもたない。
- 2) 受動態では、主語は動詞の表す行為の受動者である。
- 3) 中間態では、主語は行為を開始し、動詞の表す行為によって何らかの影響を受ける。

次に、『ギリシャ語四週間』(古川晴風)の分類を確認する。

古典ギリシャ語における中間態の意味的特徴

- 1) 再帰的、つまり、主語が動作の直接目的語になる場合
- 2) 「自分自身のために～する」の意味を表す場合
- 3) 相互的、つまり、「互いに～する」の意味を表す場合
- 4) ほとんど能動と同じであるが、自分の能力によって動作を行う場合

## 2. 2 英語の中間構文の分類

ギリシャ語文法を踏まえた上で、英語の中間態で使う動詞をタイプ A、タイプ B、タイプ C に分類する (タイプ A、B は、動詞の形が能動態で意味が受動、タイプ C は、動詞の形が受動態で、意味が能動)。

### 2. 2. 1 タイプ A

[タイプ A 動詞 : wash, read, write, sell, cut, peel, drive, handle, press, wear, break, photograph, translate 等]

## 中間構文に関する一考察

- 1) The book sells well. (その本はよく売れている。)
- 2) This razor cuts well. (このカミソリはよく切れる。)
- 3) This sweater washes easily. (このセーターは簡単に洗える。)
- 4) The article reads well. (その記事はよく書けている、その記事は読んで面白い。)
- 5) Ripe oranges peel easily. (熟したオレンジの皮は簡単に剥ける。)

英語やフランス語で書かれた古典ギリシャ語の文法書では、中間態の文をそれぞれの言語に翻訳する場合に再帰代名詞を用いることが多いため、再帰代名詞に注目し、はじめにタイプAの英文について再考する。

- 1a) The book sells well. (その本はよく売れている。)
- 1b) The book sells itself well.
- 1c) This book won't sell. (この本は売れないでしょう。)
- 2a) This razor cuts well.
- 2b) This razor cuts OBJECT well.

1a)は1b)から itself を省略した文であるとされている。ところが2a)では、再帰代名詞の省略ではなく、2b)で示すように目的語の省略である。それぞれ省略されている語は違うが、タイプAの英文では、必ず主語の特徴付けが用いられる。特徴付けは、主に副詞によってなされるが、定冠詞や指示形容詞、例文5の ripe oranges のように、形容詞が特徴付けになることもある。また、否定文においては否定語自体が特徴付けになり、1c)も適文となる。

### 2. 2. 2 タイプB

[主なタイプB動詞：look, seem, sound, taste, smell, feel など]

2番目に、主語の特徴付けという点に焦点を置き、以下の1a)と1b)を比較して、look (見る／見える)の性質を考えてみる。

タイプB (動詞の形が能動態で意味が受動的、SVCのCがSの特徴付けを行う)

- 1a) This woman looks at the baby. [能動態で能動的意味] = 「SがOを見る」
- 1b) This woman looks happy. [能動態で受動的意味] = 「Sが他人にCのように見える」
- 2) This flower smells sweet.
- 3) The milk tastes bad.
- 4) That song sounds familiar to me.
- 5) The spoon felt heavy. (そのスプーンは重く感じられた。)

1a)を除き、いずれも SVC の文型であり、C は主格補語で、S の特徴付けを行う。  
このタイプの特徴は、五感を表す動詞である。

### 2. 2. 3 タイプ C-1

[主なタイプ C-1動詞 : surprise, interest, worry, disappoint, amaze, bore, tire, amuse, confuse, excite, puzzle, satisfy, irritate, frighten, embarrass など]

3番目に、動詞の形が受動態で、意味が能動的な英文をみる。感情を表す動詞であるタイプ C-1と、その他のタイプ C-2に細分する。

タイプ C-1 (動詞の形が受動態で、意味が能動的、感情を表す)

- 1) I am surprised at the news.
- 2) He is interested in history.
- 3) I was disappointed with the result.
- 4a) I'm worried about my presentation tomorrow. (明日のプレゼンが心配だ。) 今の状態
- 4b) I worry about everything. (私は心配性だ。) 普段のこと

タイプ C-1の元の動詞は他動詞で、受動態にすると能動的な意味になる。日本語で感情を表す動詞は自動詞 (驚く、がっかりするなど) であり、自発的に発生するものと考えられるが、英語の場合は、何か (原因) が人 (結果) に影響を与えるという他動詞の形になっている。worry や marvel など、場合により自動詞として使われる動詞も一部あるが感情を表す動詞は他動詞とみるのが妥当である。

### 2. 2. 3 タイプ C-2

[主なタイプ C-2動詞 : head, marry, bear, raise, kill, injure, hurt, locate など]

タイプ C-2 (動詞の形が受動態で、意味が能動的で、感情以外を表す)

- 1) The car was headed for New York. (その車はニューヨークに向かった。)
- 2) Tom and Mary were (got) married last month. (トムとメアリーは先月結婚した。)
- 3) I was born and raised in Paris. (私は生まれも育ちもパリだ。)
- 4) That man was killed in a plane crash. (その男は飛行機事故で死んだ。)
- 5) 100 people were seriously injured in the crash. (その事故で100人が重傷を負った。)

タイプ C-2の動詞を考えるには、自動詞と他動詞を考える必要がある。例えば、be killed は、主語が何らかの力の影響を受け「死ぬ」のに対し、die は病気などの死亡要因はあるものの、

自然に「死ぬ」ことを表す。また、「育つ」の意味の be raised（周りに育ててもらう）と grow up（自然に植物のように育つ）の関係もこれに類する。

総じて、タイプ C の動詞は、文中で主語が他から何らかの働きかけを受けることを示している。タイプ C-1 では、感情の動きの原因は自分の心の外側にあり、その外的要因に心が影響を受ける。タイプ C-2 で確認したように、この「他からの働きかけ」は、日本語に反映されずに解釈されることが多い（die と be killed は、ともに「死ぬ」と訳される）が、英語ではこの違いが明確に表される。

タイプ C-1、タイプ C-2 ともに、受動態で使われることが圧倒的に多い。日本語には、主語が受ける外的要因の含みを持たず動詞表現が殆どなくタイプ A, B, C の動詞を翻訳する際には、能動的な表現を用いると自然に見える。

#### 2. 2. 4 中間構文でよく用いられる動詞

以下に挙げる動詞は、常に中間態を用いられるわけではなく、またこのリストにない動詞でも条件が揃えば中間態で用いることができることは注意しなければならない。

act, adapt, add up, adjust, anneal, assemble, astonish, bake, baptize, blow, bribe, broil, button, cancel, cast, catch, chew, circulate, clean, compare, compose, construe, convert, convince, cook, cover, crush, cut, dance, decipher, develop, dice, digest, discourage, draw, dribble, drink, end, exchange, fasten, feel, fish, fix, fold away, fold up, freeze, frighten, frustrate, fry, grind, handle, hook, hurt, intimidate, iron, kill, knot, launder, lay, let, lift out, listen, mold, mulch, pack (up), paint, peel, photograph, plant, play, plug in(to), polish, press, print, proofread, pull out, put up, read, recycle, refrigerate, rent, ride, rhyme, roast, row, rub, saw, scale, scan, scare, screen, seduce, sell, serve, shift, ship, show, slice, smoke, solve, spoil, spray, stain, steer, steam, strike, surprise, swallow, take, teach, televise, train, transcribe, transfer, translate, transmit, transport, transplant, transpose, trim, type, wash, wax, wipe (up), write

#### 2. 2. 5 中間構文の定義と例文

最後に、中間構文がいつ用いられるかの定義と例文を確認する。『日本人が知らない英文法』における定義は、「ある他動詞を自動詞として用いて、他動詞として用いたときの目的語を、主語にすることができる。」としている。

Tennis balls sell best in summer. テニスボールは夏によく売れる。

The beef is roasting nicely on the spit. 串刺しの肉が美味しそうに焼けている。

This sweater looks beautiful. Will it wash? 洗濯がききますか。

The two editions of the book read differently.

(同じ本の) 2つの版に違ったところがある。(違って読めるが直訳)

(江川泰一郎 2003年 p.186)

The new Ford is selling badly. 新型フォードは売れ行きが悪い。

Clay shapes well. 粘土は変形しやすい。

Math theses type slowly. 数学の論文はタイプするのに時間がかかる。

This cereal eats crisp. このシリアルは食べるとバリバリする。

(安藤貞雄 2005年 p.362)

① \*This applesauce will eat rapidly.

② Keep these pills away from the baby. They' re powerful, but they eat like they were candy.

③ A: What shall I have for lunch, an apple or a grapefruit?

B: Since you only have five minutes, take an apple. It eats more rapidly than a grapefruit.

(van Oosten 1977 p.462-463)

一般に eat は中間構文をとれないとされており、①は非文である。ところが、②は、その薬がお菓子のように(誰でもいつでも)口にてきてしまうという意味の制約が加わるため、適文とみなされる。また、③も、時間がないならグレープフルーツよりもりんごのほうが(誰でも簡単に)速く食べられるということを示しているため、適文とみなされる。

このように、ある動詞が中間構文で使われるかどうかは、動詞自体で決まるわけではなく、主語に来る制約や性質、状況や一般常識などを勘案しなければならない。

中間構文が難しいのは、上記のように様々なことを視野にいれる必要があるのみならず、一見簡単な単語の羅列に見える文でも、誤訳が生じやすいという点にもある。

① His essays read well.

× 判読できる。

○ 読んで面白い、読みごたえがある。

(村田勇三郎 2005年 p.100)

② They are selling like experts. 彼らは熟練した商人のように売りまくっている。

③ They are selling like hot cakes. それらは飛ぶように売れている。

②の sell は普通の動詞、③の sell は中間動詞である。ともに進行形の文で、ほぼ同じ形をしているが、構文の種類が異なる。

(小野経男 1990年 p.252)

更に、中間構文を使える制約についても、簡単に理解し難い点がある。一般に、中間構文は、主語の特徴を述べるものであるから、通例、現在時制で用いられること、また様態を示す副詞か形容詞を伴うとされるが、以下のような英文もある。

\* ① This magazine reads. (Fellbaum 1985年 p.22)

② This magazine sells. (Fellbaum 1985年 p.22)

双方とも副詞が現れていないが、①が非文で②は問題ない。中間構文には副詞がつくとされるが、その副詞は、中間構文の主語の属性を伝えるための有益な情報を伝えているかがポイントとなる。

①は、「この雑誌は読める」という訳だが、雑誌というのは読まれるものであり、どのような読まれ方をするのが分からないため、単に「読める」だけだと有益な情報を伝えていないため、非文とみなされる。

②は、「この雑誌は売れる」という意味で、雑誌の属性を伝えるための有益な情報を述べている。副詞がなくても、動詞の中に有益な情報が含まれているため、適文とみなされる。

### 3. ある種の間接構文 (look を中心に)

2章のリストで示したように、look, appear, show は、通例は中間構文をとる動詞とはみなされていない。にもかかわらず、これらの動詞は、明らかに中間構文と同じ原理で、能動態に見えるが、受動のような訳をする場合がある。He looks young. のように英文を訳す問題であれば、ほぼ全員訳せるが、単語テストの形で出題すると、look の訳を「見る」と書いてある答案ばかりであった。(以下の単語確認テストを参照)

第2文型で用いる look, sound, appear などは、義務的に補語を伴い、主語の属性や状態を表す知覚動詞の用法であるため、専門的には、連結的知覚動詞構文 (Copulative Perception Verb' s Construction) と呼ばれる。この構文で用いられる動詞は、受動態のように be + 過去分詞の形をしているわけではないが、知覚対象が主語に置かれる。また、義務的に補語を必要とするため、He looks. It sounds. のように補語がない文は認められない。また、動詞の行為を行う主体 (以下の例文の場合、見ている人物) が文中に書かれてはいないが、He looks happy to {everyone / me} . の { } 内の語句が示すように、総称的人物 (everyone) であっ



ても、話者自体 (me) であっても、表すことができる。そして、{|} 内の語句を省略し、He looks happy. としても、彼は幸せそうに (皆に／私に) 見えるというように、総称的にも個別的にも解釈される。

上記の連結的知覚動詞構文と中間構文で用いられる動詞 (中間動詞) には、共通した特性が見られるため、両構文はパラレル関係にあるとみなされている。

2018年7月16日に実施した授業内での単語確認テストは以下の問題を用いた。テストを受けた学生数は82名である。

I 次の単語の訳を、思いつく限り書いてみましょう。

- ① look ( ) ( ) ( )
- ② show ( ) ( ) ( )
- ③ surprise ( ) ( ) ( )
- ④ serious ( ) ( ) ( )
- ⑤ satisfy ( ) ( ) ( )
- ⑥ room ( ) ( ) ( )
- ⑦ remind ( ) ( ) ( )
- ⑧ recall ( ) ( ) ( )
- ⑨ press ( ) ( ) ( )
- ⑩ object ( ) ( ) ( )
- ⑪ novel ( ) ( ) ( )
- ⑫ master ( ) ( ) ( )
- ⑬ launch ( ) ( ) ( )
- ⑭ line ( ) ( ) ( )
- ⑮ figure ( ) ( ) ( )
- ⑯ read ( ) ( ) ( )
- ⑰ flight ( ) ( ) ( )
- ⑱ financial ( ) ( ) ( )
- ⑲ expect ( ) ( ) ( )
- ⑳ leave ( ) ( ) ( )

期末テスト<sup>(注)1</sup>によく出題される単語の理解度チェックという目的だけではなく、TOEIC頻出語を知って欲しいと意図した確認テストではあるが、①の look の訳し方にはある傾向が

見られた。

表1 2018年7月16日に82名に実施した授業内での単語確認テストの結果

単語	見る(第一義)	見える(第一義)	探す(第一義以外)	見える(第二義)
look	79名	3名	17名	8名(～のような という訳がうち4名)

その他の訳語例は、見た目(5名)、視線・見た目・見方(4名)などがあった。

lookのみで「見る」と訳す場合、すなわちlookを他動詞で用いる場合は、アルク辞典によれば、以下の3つしかない。

1. (人)の～をじっと見る、～を注視する
  - ・ I looked him in the eye. 彼の目をじっと見詰めた。
2. 注意する、気を付ける、確かめる、確認する
  - ・ Hey, look what you did to my car here. 俺の車に何てことしてくれたんだ。
3. 表情で～を伝える、～という目つきで(人)を見る
  - ・ I looked my annoyance at him. 困っているという表情をして彼を見た。

1の用例が教科書に載っていることは時折見かけるが、2,3の用法は、日常ではよく用いられるものの、教科書ではあまり見かけない。にもかかわらず、lookの訳語で一番先に思いつく訳(第一義)で、82名中79名が、「見る」と書いている。反対に、教科書でよく見かける第二文型の「～のように見える」は、第一義で3名、第二義でも8名と、思いつだけ書く単語テストとしては、この訳語が定着していないように感じられる。

上記のように、実際の使用例からすると正確とは言えない訳語の覚え方を減らすために、核になるイメージ(コア)から基本語の訳し方、更には例文をおさえていくことで、限られた語句でも英語を運用するのに資すると考えられる。

図1 look の図解コアイメージ



出典 : <https://www.english-speaking.jp/difference-between-see-and-look-and-watch/>

#### 4. 中間構文の多義性

The door doesn't open in wet weather.

- 自動詞構文として英語で表現すると ① The door stays shut in wet weather.  
中間構文として英語で表現すると ② The door cannot be opened in wet weather.

①は、「雨の日にそのドアが開かない」という自動詞構文である。

②は、「雨の日は(いつも)そのドアは開かなくなっている・閉じている」という中間構文である。何らからの理由で、誰が開けようとしてもそのドアが開かないことを示す。

この例では、単なる自動詞構文と中間構文の訳の差があまりないようにうつるが、次の例では、両者の違いがより鮮明になるように思われる。

- ③ The door closes easily; it only takes a gust of air. (能格動詞)  
④ The door closes easily; you just have to press down. (中間構文)

③では、「風がちょっと吹けば」とあるから、ドアが簡単に閉まるという意味で、背後に誰が閉めてもというような人の気配が感じられない。単にそのドアが簡単に閉まるということだけを示している。

④では、「下に押しさえすればいい」とあり、誰が閉めても、下に押しさえすれば簡単に閉められるという背後に人の気配が感じられる。

②と④の訳からも分かるように、英文中には、当の人間や人間の働きかけは書かれていないが、中間構文は背後に人間の働きかけを読み取ることができる。

## 5. 中間構文の制約のまとめ

本稿まとめとして、中間構文がいつ用いられるかの制約と制約に関する補足をまとめる。

- (01) 中間構文で用いられる動詞はもともと他動詞であり、他動詞が能動形で現れる。
- (02) 意味上の目的語が主語の位置に現れる。
- (03) 意味上の主語は表面上存在しないが、総称的に解釈された潜在的な動作主 (implicit agent) はその意味に含まれる。
- (04) 時制は単純現在形で使われることが多い。(進行形や過去形で用いられる場合もある)
- (05) 法助動詞を伴う場合は、will が使われることが多い。
- (06) 一般的・総称的 (generic) な状態を示す。
- (07) 特定の出来事には用いられない。
- (08) 様態を示す副詞 (well や easily) を伴うことが多い。
- (09) 創造動詞や破壊動詞は、中間構文で用いることができない。
- (10) 作成動詞も中間構文で用いることができない。
- (11) 対象物の状態変化を含まない状態動詞も中間構文で用いることができない。
- (12) 接触・打撃動詞も中間構文で用いることができない。但し、接触・打撃動詞でも結果述語を補うと、中間構文で用いられる。
- (13) 非能格動詞も中間構文で用いることができない。
- (14) 知覚動詞 (see, watch, hear)、理解 (understand, grasp, learn)、疑い (doubt, question)、一部の感情 (refuse, reject)、主語が受益になる動詞 (receive) も中間構文で用いることができない。
- (15) ある特定の出来事を表すことになる命令文や進行形は基本的にとれない。
- (16) kill は中間構文が起ころうが、murder のように動作主の意思を強く暗示する動詞は中間構文としては容認されない。
- (17) 有益な情報価値 (新情報) を付与すると、中間構文で使うことができる。

補足

- (1) ~ (17) を端的にまとめたものに以下がある。

中間構文の主語は、ほとんどは被動者 (patient) であるが、時に具格 (instrument)、経験者格 (experiencer) も散見される。場所格 (locative)、受容者格 (recipient) は例外的である。主語が動作者 (agent) や結果格 (effected) の主題役割を担う場合は排除される。

(村田勇三郎 2005年 p.101)

- (03) 意味上の主語は表面上存在しないが、総称的に解釈された潜在的な動作主 (implicit agent) はその意味に含まれる。

別の言い方をすると、中間構文の主語（対象物）には、被動性と責任性があるとなる。要するに、中間構文の主語（もとは他動詞の目的語）は、隠れた行為者の手元になくなくてはならないということである。

The book sells well.

\*The book buys well.

主語（the book）が、隠れた行為者の手元にある場合、すなわち売の場合は、中間構文が成立するが、手元がない場合、すなわち買う場合は、中間構文を用いることができない。隠れた行為者（書店や著者）が関心を持っているのは、主語である the book がよく売れることであり、隠れた行為者がその本を売ろうとする努力はもちろん大事だが、その本が売れるかどうかの責任は、隠れた行為者よりも寧ろその本の内容自体にある。つまり、売れるかどうかの責任は本にあると考えられている。これが中間構文の主語に発生する責任性である。

一方、本が買えるかどうかは、本自体の内容というより、買い手の経済状況によるので、本の責任とは考えにくい。本ではなく、家を例にして考えると、家自体の責任性よりも、買おうとする側のローンの条件や収入などによるため、家の責任性は考えにくい。

(03) , (04) , (06)

中間構文の隠された動作主は、一般化された行為者を表すことが多いので、時制は一般的な時間帯を示す現在時制が多く、ある対象物の一般的な性質を表すことが多い。一般的・総称的な内容を示すため、多くの一般人が買う商品広告の宣伝文に、中間構文は向いていると考えられている。

2018年の8月9日からテレビコマーシャルが開始された、P & G の3層立体構造のジェルボール型洗剤「アリエールジェルボール3D」と「ボールドジェルボール3D」のCMにおいても、「0.3秒に1個売れてます！」(<http://cm-watch.net/gelball-ikuta/>)とテロップ付きで放送されている。「0.3秒に1個売れてます！」という短いフレーズを聞いただけでも、バンドワゴン効果、アンカリング効果、フレーミング効果の心理効果もたらされていると考えられる。

(08) 様態を示す副詞（well や easily）を伴うことが多い。

様態というのは、「そうだ」のように、不確定な言い方のことである。不確定という意味で、not が用いられることもある。

ちなみに、様態副詞を意味的に分類すると、以下の三つに区分できる。

1 速度（fast, quickly, rapidly, slowly）

Toyotas sell quicker than Chevrolets.

2 評価（badly, poorly, favorably, properly, reliably, smoothly, well）

I am afraid that this scene does not photograph well.

3 容易さ (easily, readily, with/without difficulty [trouble])

The clothes wash with no trouble.

(村田勇三郎 2005 p.95)

(09-1) 創造動詞や破壊動詞は、中間構文で用いることができない。

以下で用いられている動詞は、創造動詞であるので、中間構文として用いることはできない。

\*Wool sweaters knit easily.

\*Houses build easily.

\*Pictures draw well.

\*The novel writes easily.

\*This cathedral destroys easily.

(小野経男 2001 p.34)

This cathedral will destroy easily.

(谷口一美 1994 p.14)

簡単に壊れることは判断できなくても、推量 (will) することは十分可能であるので、一番下の英文は容認される。

(09-2) 創造動詞や破壊動詞は、中間構文で用いることができない。

同じ動詞でも、創造動詞で用いる場合と、そうでない場合がある。創造動詞では中間構文は用いられないが、別の意味で用いる場合は、中間構文を作ることができる。

一例として、dig を挙げてみる。

① 創造動詞としての用法…目的語が行為の結果作り出されたもの、いわゆる結果目的語

② 創造動詞ではない用法…既存にある物体が動詞によって表される行為の働きかけを受けるもの、いわゆる被動目的語

He digs a hole. ①の用例

\*A hole doesn't dig easily. (創造動詞として用いられているので非文)

He digs a ground. ②の用例

The ground doesn't dig easily. (創造動詞として用いられていないので適文)

(10) 作成動詞も中間構文で用いることができない。

作成動詞というのは、make, invent, build などである。

(11) 対象物の状態変化を含まない状態動詞も中間構文で用いることができない。

対象物の状態変化を含まない状態動詞というのは、know や believe などである。

(12) 接触・打撃動詞も中間構文で用いることができない。但し、接触・打撃動詞でも結果述語を補うと、中間構文で用いられる（右の英文は適文）。

\*This counter wipes quickly. This counter wipes clean quickly.

\*Elephants don't kick easily. Elephants don't kick senseless easily.

(17) 有益な情報価値（新情報）を付与すると、中間構文で使うことができる。

\*Fish doesn't keep well. 魚が日持ちしないのは常識なので有益な情報とは言い難い。

Fish doesn't keep well, not even in a fridge. 冷蔵庫に入れても日持ちしないということになると価値ある情報になる。 (影山太郎 2001 p.186)

## 6. 中間構文の今後の活用

中間構文に基づく話題を挙げると、2017年に哲学者の國分功一郎が『中動態の世界』を出版して間もなく、東大・京大の大学生協で上位2位の売り上げを記録し、巷間でも売れている。同著は、ギリシャ語文法や英文法の中動態の概念を更に拡げて捉え、英文法における中動態が使われない語句にも、中動態の概念を盛り込んで解説している。

同著の一例を挙げれば、「する」と「される」という能動態と受動態だけでは説明できない事が世の中には多々あるとしている。例えば、銃を突きつけられてお金を要求されたら、強制的にお金を出している点では受動的だが、結果お金を出すというところから従った点は能動的であるとしている。「する」「される」に二分して捉える理解は、常に責任の所在はどこかを追及しているが、中動態で理解すれば、物事の責任がどうなのかという点ではなく、状態がどうなのかで考えることができるようになるとしている。

日常でのものの考え方においては、上記の中動態の思考法を用いたり、英語学習においては、コアで英単語を捉えた上で例文を使えるようにしたり、中間態に限らず文法を公式化して覚えるのではなく、条件、文脈、常識などを勘案して、柔軟に使いこなしたりする必要性が益々増えていくと考えられる。

なお、授業で使用している『TARGET! pre-intermediate』の中に受動態とそれに類する構文が出てくる箇所がある<sup>(註)2</sup>。本稿の考え方をおさえた上で英文和訳にいかせば、読みやすく分かりやすい和文を作ることができるようになると思われる。

(注) 1 本学では定期試験に英検 IBA テストを実施しており、筆者担当クラスではレベル B - 英検準2級から2級程度までを測るテストが実施されている。

(注) 2 『TARGET! pre-intermediate』に以下のような受動態とそれに類する英文が出てくる。

- ① Groups of students are often seen wearing the same black suits … (p.24 ℓ 5)
- ② The event was won by a man who was actually not a professional athlete. (p.39 ℓ 5)
- ③ For some countries, hosting the Olympics has helped them gain international status and recognition, which has led to more foreign investment. (p.39 ℓ 22)
- ④ When Japanese art forms such as ukiyo-e and manga are adopted in other countries, they are often changed to suit local tastes. (p.49 ℓ 27)

特に③は一見どこにも受動態は登場しないが、recognition や investment を日本語に訳す際には、受動態として訳すほうが、読みやすい和文になる。

授業内で訳を書かせると、(中略)「国際的な地位と認識を獲得し、それがより多くの外国の投資を導いた。」という答えが散見された。誤訳とまではいかないが、かなり分かりにくい文章ではあるため、(中略)「国際的な地位を得て、世界からも評価され、結果として、今まで以上に他の国々から投資をしてもえらえるようになった。」とすると英文が示している内容はイメージしやすくなるかと思われる。

#### 〔参考文献・引用文献〕

- 安藤貞雄 『現代英文法講義』 開拓社 2005年 p.362  
江川泰一郎 『英文法解説』 金子書房 改訂三版 2003年 p.186  
小野経男 『意外性の英文法』 大修館書店 1990年 p.251～254  
小野雄一 「中間構文と創造動詞について」 小山工業高等専門学校研究紀要 第34号 2002年  
影山太郎 『動詞意味論』 くろしお出版 1996年  
影山太郎 『日英対照 動詞の意味と構文』 大修館書店 2001年  
萱原雅弘 「中間構文に関する通時的考察」 東京家政学院大学紀要 第46号 2006年  
國分功一郎 『中動態の世界』 医学書院 2017年  
クリストファ・バーナード 『日本人が知らない英文法』 プレイス 2007年  
島津万佑子 「英語中間構文再考」 愛知淑徳大学論集・文化創造学部・文化創造研究科篇 文化創造学部論集編集委員会編 掲載ページ p.71～84 2008年  
久野暲・高見健一 『謎解きの英文法 動詞』 くろしお出版 2017年  
田中茂範 『動詞がわかれば英語がわかる』 ジャパンタイムズ 1989年  
谷口一美 「中間構文の認知的分析」 Osaka Literary Review. 33 P.1-P.16 1994年  
柘植美波 「英語の中間構文 —先行分析とその問題点—」  
金城学院大学論集 人文科学編 第14巻第2号 2017年  
友繁義典 『英語の意味を極めるⅡ 動詞・前置詞編』 開拓社 2016年



- Nakamura Masaru "The Middle Construction and Semantic Passivization" in T. Kageyama (ed),  
Verb Semantics and Syntactic Structures, Kuroshio Publishers, Tokyo, 115-147 1997年
- 二枝美津子 「中動態と他動性」 2009年 京都教育大学紀要 No.114
- 畠山雄二 『ことばの本質に迫る理論言語学』 くろしお出版 2014年
- 初谷智子 「中間構文の意味と形式」 -属性叙述と構文ネットワーク 姫路独協大学外国語学  
部紀要, (29), 17-30 (2016-02)
- [https://hdu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&creator=%E5%88%9D%E8%B0%B7+%E6%99%BA%E5%AD%90&page\\_id=13&block\\_id=21](https://hdu.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_snippet&pn=1&count=20&order=16&lang=japanese&creator=%E5%88%9D%E8%B0%B7+%E6%99%BA%E5%AD%90&page_id=13&block_id=21)
- 藤井数馬 「英語中間構文の認知的視点からの研究の必要性和拡張における一考察」 同志社  
大学学術リポジトリ 2003年3月15日 64号
- 古川晴風 『ギリシヤ語四週間』 大学書林 1958年
- 村田勇三郎 『現代英語の語彙的・構文的現象』 開拓社 2005年
- 森田彰ほか 『TARGET! pre-intermediate』 金星堂 2016年
- 森田信也 「英語における中間態と能格構造について」 山梨県立女子短大紀要第31号1998年
- 湯本久美子 「英語中間構文における認知主体の経験に基づく探索活動」 東京言語研究所  
2006年
- 劉剣 「日本語の中間態再考」 筑波日本語研究J 第十五号筑波大学人文社会科学研究所  
2010年

〔洋書からの引用〕

- Fellbaum, C. Adverbs in Agentless Actives and Passives CLS 21:21-31 1985
- Hoffner Jr., H.A. A Grammar of the Hittite Language Eisenbrauns 2008
- Jespersen, O. A Modern English Grammar on Historical Principles: Volume 3  
Routledge Library Editions: Collected English Writings 2013
- Van Oosten, J. Subjects and Agenthood in English CLS 13, 459-471. 1977

〔インターネットからの引用〕

- <https://eow.alc.co.jp/search?q=look&ref=sa> アルク翻訳辞典 2018年8月21日
- <http://cm-watch.net/gelball-ikuta/> P & G の3層立体構造のジェルボール型洗剤「アリエール  
ジェルボール3D」と「ボールドジェルボール3D」のCM 2018年8月18日
- <https://www.english-speaking.jp/difference-between-see-and-look-and-watch/> 英語イメージリ  
ンク 2018年8月21日

